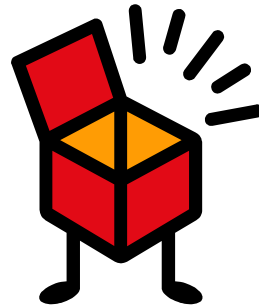



日立金属株式会社
2013年度第3四半期決算説明



Materials Mag!c

2014年1月29日

 日立金属株式会社
Hitachi Metals, Ltd.

<http://www.hitachi-metals.co.jp>
E-Mail : hmir.sa@hitachi-metals.com

■需要動向

- 自動車関連: 輸出改善を背景に国内生産が堅調に推移、海外も欧州を除く北米・アジアで需要が増加
エレクトロニクス関連: スマートフォンやタブレット端末等の需要が堅調に推移
産業インフラ関連: 海外需要は好調に推移、国内も公共・民間設備投資ともに堅調に推移

■売上高 2,263億円 (12/3Q比173%、13/2Q比 105%) 営業利益 180億円 (12/3Q比 176億円増、13/2Q比 36億円増)

- ・高級金属製品 : 輸出環境の改善や環境親和製品の需要が堅調に推移、前年同期(12/3Q)比、前期(13/2Q)比とも増益
- ・磁性材料 : 自動車関連や太陽光関連の需要が好調に推移、前年同期比、前期比とも利益面で改善
- ・高級機能部品 : 国内外の自動車需要や公共・民間設備投資に支えられ、前年同期比、前期比とも増収増益
- ・電線材料 : 公共投資関連をはじめ、自動車や建設、通信関連需要が好調に推移。利益面ではこれまでの構造改革効果により収益性が大幅に改善

* 海外売上高 912億円(海外売上高比率 40.3%)

北米 258億円(構成比 11.4%)、アジア 506億円(構成比 22.4%)、欧州 120億円(構成比 5.3%)、その他28億円(構成比 1.2%)

■通期業績見込

13年10月28日公表数値(売上高 7,900億円、営業利益 560億円、当期純利益355億円)は見直していない
(参考: 日立電線13/1Q業績を考慮した場合、13年度売上高は8,783億円、営業利益は592億円)

連結業績要約

[単位: 億円、累計、()内は前年同期比]

	2012年度							2013年度					
	1Q 実績	2Q 実績	1Q-2Q 累計	3Q 実績	4Q 実績	3Q-4Q 累計	年度 累計	1Q 実績	2Q 実績	1Q-2Q 累計実績	3Q 実績	3Q-4Q 累計予想	年度 累計予想
売上高	1,411	1,333	2,744	1,309	1,305	2,614	5,358	1,354 (96%)	2,151 (161%)	3,505 (128%)	2,263 (173%)	4,395 (168%)	7,900 (147%)
								旧日立電線 883	(参考)旧日立電線1Q業績考慮後 1Q-3Q累計 6,651 (164%)			(参考)旧日立電線1Q業績考慮後 年度累計 8,783 (164%)	
営業利益	103	67	170	4	37	41	211	87 (Δ16)	145 (+78)	232 (+62)	180 (+176)	328 (+287)	560 (+349)
								旧日立電線 32	(参考)旧日立電線1Q業績考慮後 1Q-3Q累計 444 (+270)			(参考)旧日立電線1Q業績考慮後 年度累計 592 (+381)	
経常利益	93	60	153	12	48	60	213	90 (Δ3)	137 (+77)	227 (+74)	199 (+187)	313 (+253)	540 (+327)
(特別損益)	24	0	24	Δ15	Δ50	Δ65	Δ41	Δ15 (Δ39)	Δ32 (Δ32)	Δ47 (Δ71)	Δ22 (Δ7)	Δ3 (+62)	Δ50 (Δ9)
税前利益	117	60	177	Δ3	Δ2	Δ5	172	75 (Δ42)	105 (+45)	180 (+3)	177 (+180)	310 (+315)	490 (+318)
当期純利益	73	36	109	Δ7	28	21	130	37 (Δ36)	59 (+23)	96 (Δ13)	135 (+142)	259 (+238)	355 (+225)
ROE(%)	13.1	6.5	9.8	Δ1.2	4.5	1.7	5.5	5.9 (Δ7.2)	8.3 (+1.8)	6.7 (Δ3.1)	16.0 (+17.2)	15.4 (+13.7)	11.9 (+6.4)
設備投資額	67	68	135	51	81	132	267	51 (Δ16)	95 (+27)	146 (+11)	65 (+14)	254 (+122)	400 (+133)
減価償却費	57	59	116	61	65	126	242	63 (+6)	89 (+30)	151 (+35)	92 (+31)	189 (+63)	340 (+98)
研究開発費	28	27	55	28	28	56	111	27 (Δ1)	46 (+19)	73 (+18)	45 (+17)	97 (+41)	170 (+59)

セグメント別売上高・営業利益： 高級金属製品

(単位:億円)

売上高 596億円

12/3Q比 108%、13/2Q比 101%

営業利益 68億円

12/3Q比 20億円増、13/2Q比 10億円増

輸出改善による国内自動車生産の増加や環境親和製品の需要が堅調に推移、前年同期(12/3Q)対比、前期(13/2Q)対比ともに増収増益

■特殊鋼

・金型・工具用材料:

海外需要は好調に推移、国内需要も期後半に自動車生産の持ち直し等に伴い、前年同期比、前期比ともに増加

・エレクトロニクス関連材料:

ディスプレイ関連材料の需要が中小型用等で堅調に推移、半導体等パッケージ材料も回復傾向

・産業機器・エネルギー関連材料:

自動車関連材料は環境親和製品への需要が堅調に推移、エネルギー関連材料も航空機関連材料が伸長し増加

■ロール

・各種ロール:海外需要は増加、国内需要は低調に推移

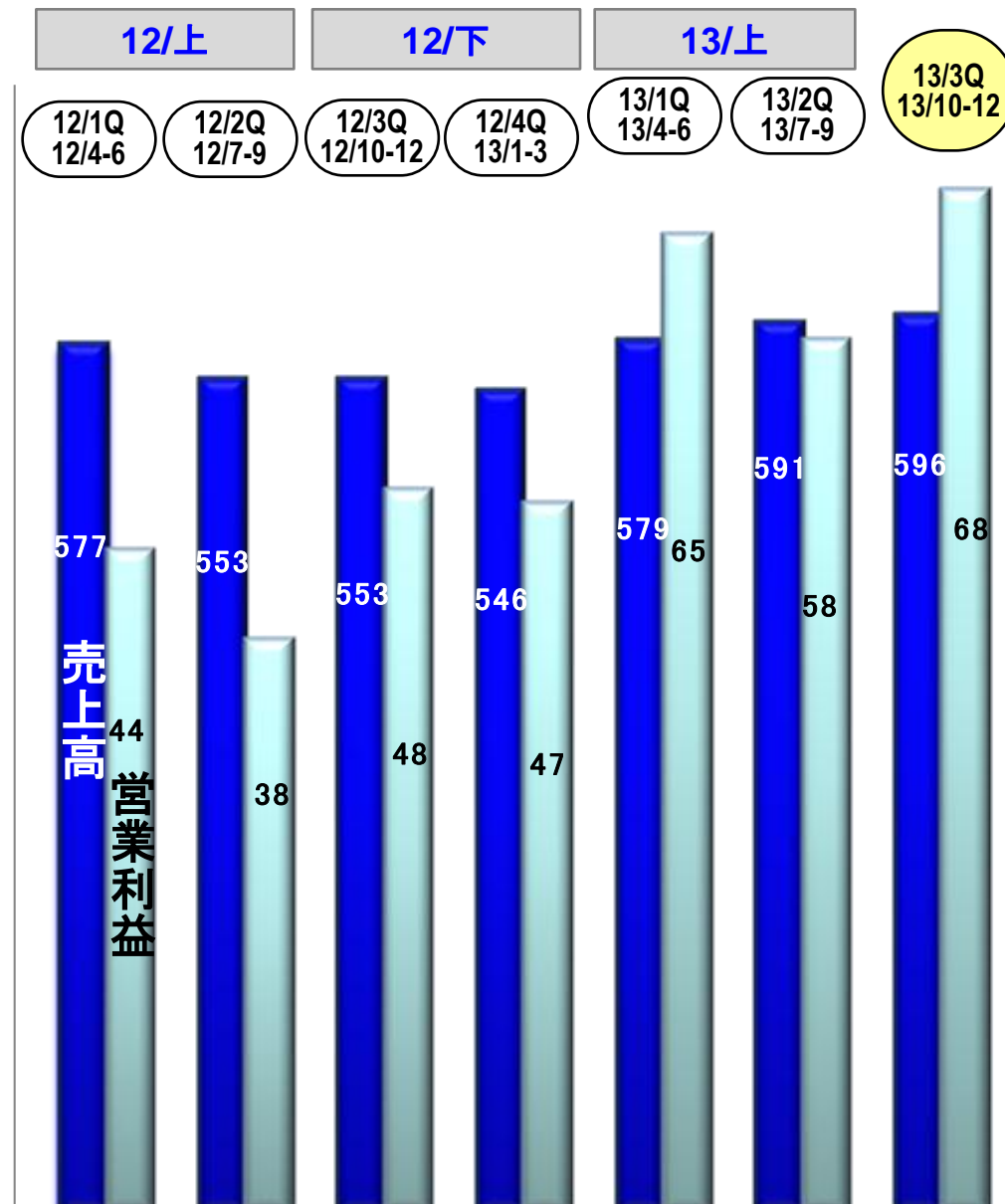
・射出成形機用部品:国内向け、海外向けとも回復基調

■アモルファス金属材料

主要市場である中国において、政府の省エネ機器導入推進政策等により需要が増加したものの一時的な調整が入ったことにより前期比では減少

■切削工具

産業機械等の国内需要は回復傾向、海外向けは輸出改善を背景に堅調に推移し増加



(単位:億円)

売上高 335億円

12/3Q比 105%、13/2Q比 104%

営業利益 37億円

12/3Q比 108億円増、13/2Q比 7億円増

売上高は、自動車関連の需要は堅調に推移、FA関連の需要も持ち直し傾向となり、セグメント全体で前年同期(12/3Q)、前期(13/2Q)対比ともに増加。利益面でも前年同期対比、前期対比ともに改善

■マグネット

・希土類磁石：

ハイブリッド車や国内の自動車用電装部品は好調に推移しFA関連も需要持ち直し傾向。HDD関連は市場の低迷が継続。

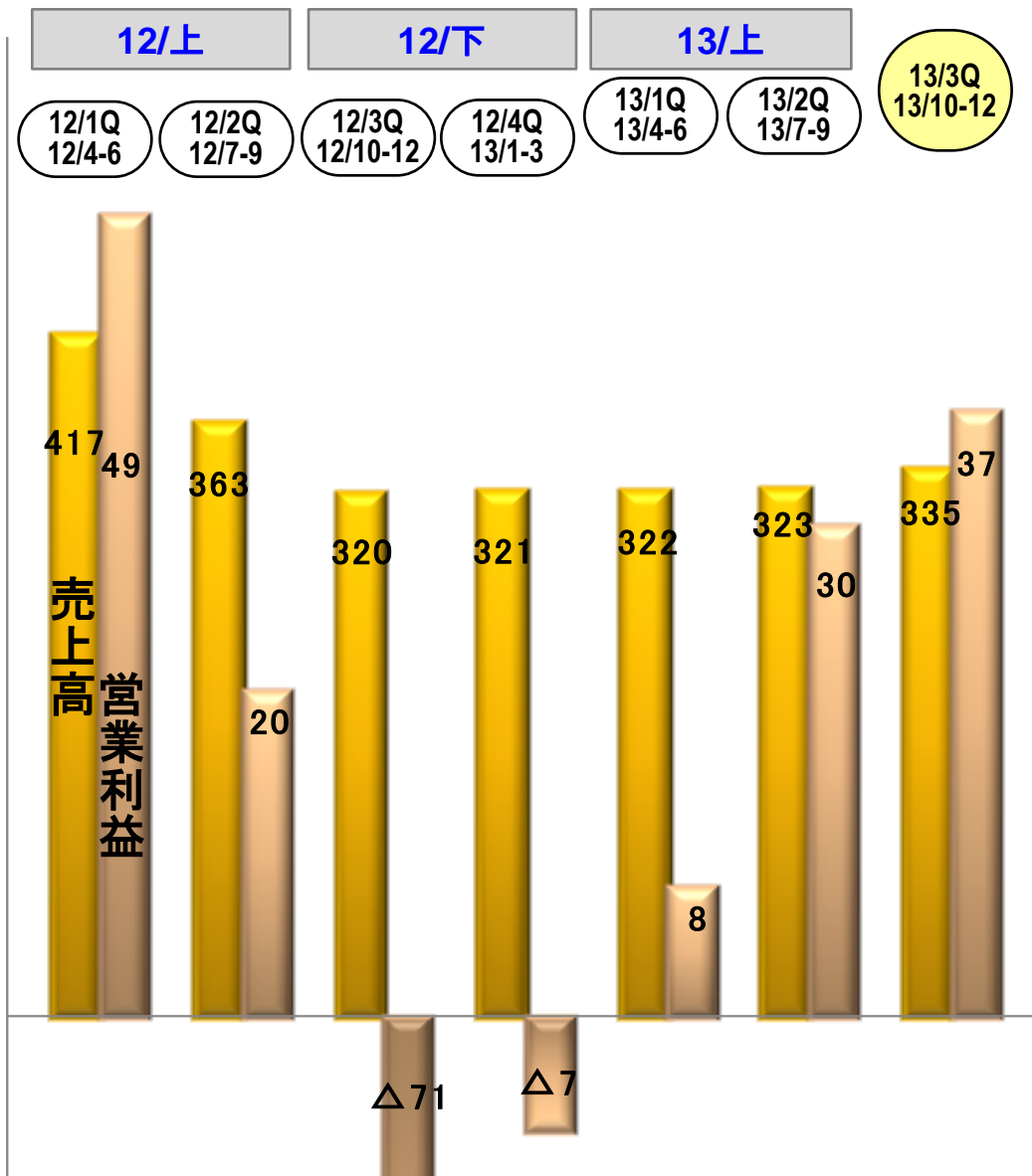
・フェライト磁石：

国内、海外とも自動車用電装部品、家電用部品の需要が好調に推移し増加

■軟質磁性材料・応用品

ソフトフェライトは太陽光発電用部品や自動車用電装部品等への需要が好調に推移、ファインメットは前期比では減少したものの、前年同期比では欧州向け太陽光発電用部品の需要が増加

* 第1四半期より、従来の「電子・情報部品」は「磁性材料」にセグメント名称を変更しております。これによる業績への影響はありません。



(単位：億円)

売上高 494億円

12/3Q比 112%、13/2Q比 109%

営業利益 40億円

12/3Q比 5億円増、13/2Q比 12億円増

国内外の自動車需要や公共・民間設備投資に支えられ
前年同期(12/3Q)対比、前期(13/2Q)対比とも増収増益

■自動車用鋳物

・耐熱鋳造部品：

主要市場である欧州の景気低迷による影響が続いたものの
米国や国内における自動車エンジンのダウンサイジング化
に伴う需要が好調に推移

・高級ダクタイル鋳鉄製品：

米国等の海外乗用車需要が引き続き旺盛に推移し、国内も
商用車を中心とした需要が好調に推移し全体として増加

・アルミホイール：

米国、国内とも前期比で増加、前年同期比で減少

■配管機器

・各種管継手：

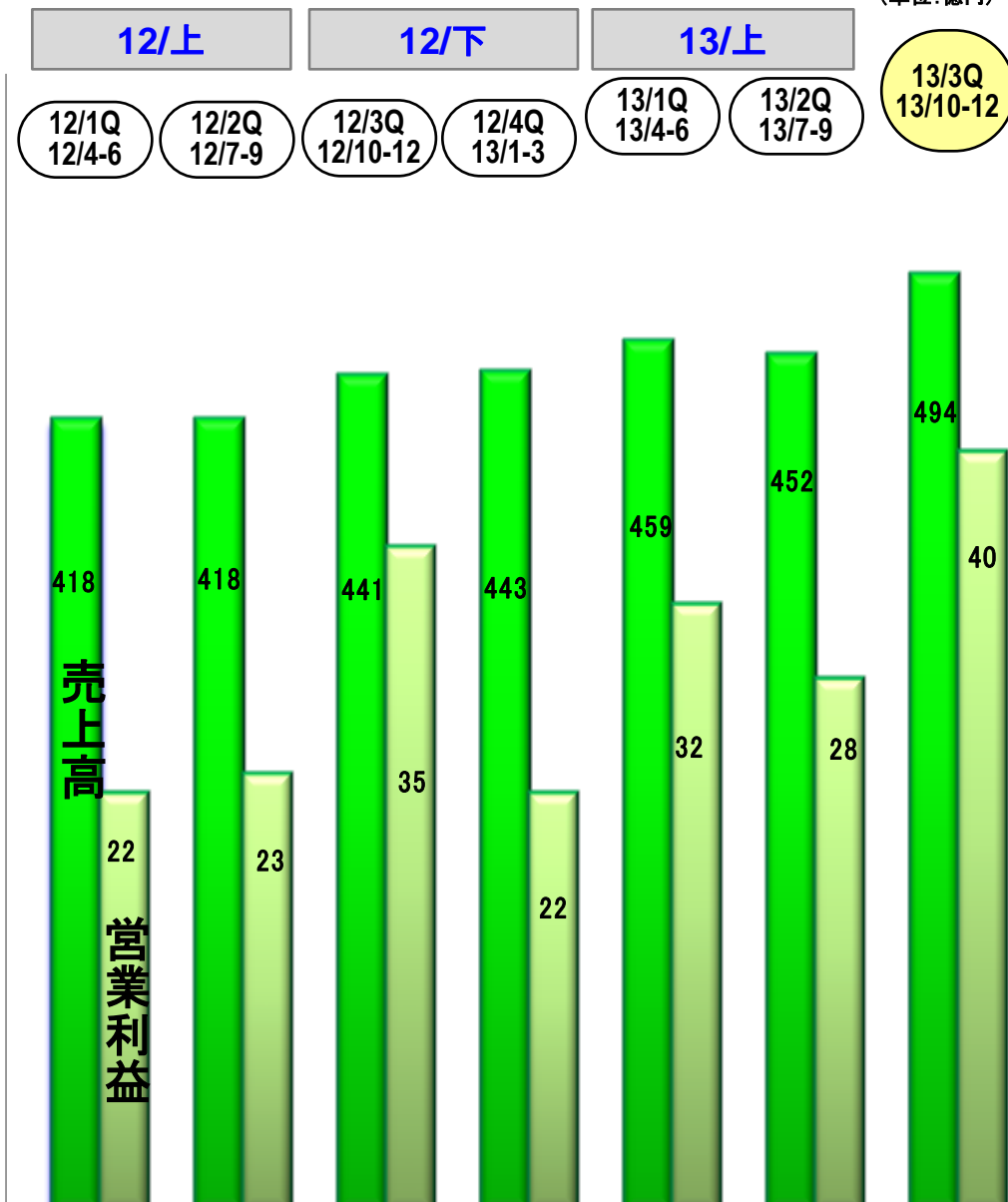
国内住宅着工戸数の持ち直しに加え、米国の住宅市場が
順調に回復し、堅調に推移

・ステンレス及びプラスチック配管機器：

ガス用製品に対する施工性・耐震性の高評価により需要が
好調に推移

■建築部材

国内民間設備投資や堅調な国内公共投資に支えられ、
鉄骨造建設需要が好調に推移



セグメント別売上高・営業利益：電線材料

(単位:億円)

売上高 848億円

(参考)旧日立電線の12/3Q比 96%、13/2Q比 107%

営業利益 60億円

(参考)旧日立電線の12/3Q比 55億円増、13/2Q比 16億円増

公共投資関連をはじめ、自動車や建設、通信関連需要が好調に推移。利益面ではこれまでの構造改革効果により収益性が大幅に改善

■電線

電力・産業システムは公共投資関連、鉄道新設案件需要に加え、太陽光発電施設等の建設向け需要も堅調に推移。電子・通信材料は半導体製造装置用を中心に好調に推移。電機材料は、巻線は自動車用途を中心に需要が回復し、太陽電池関連需要は好調に推移

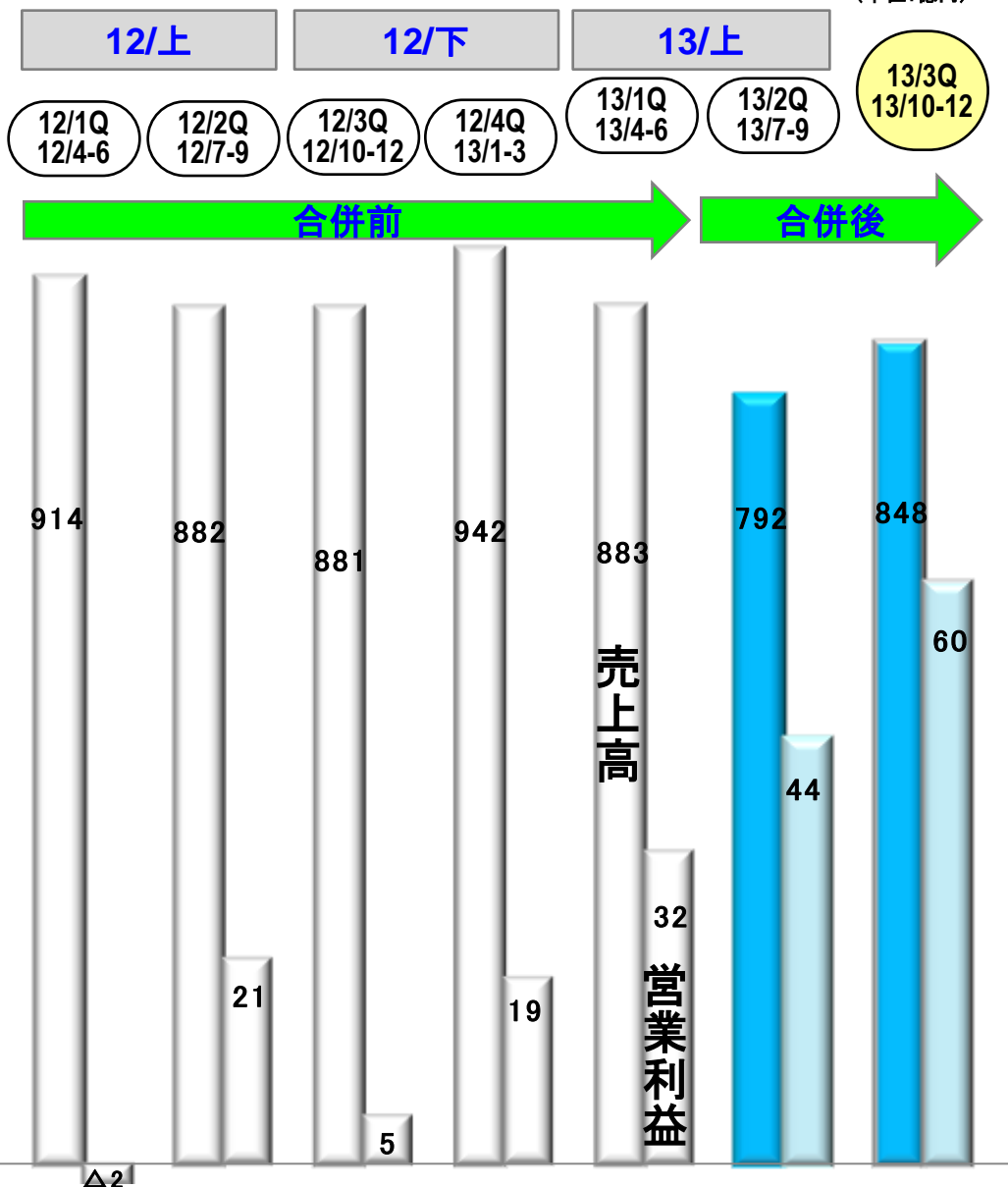
■自動車用部品

注力分野である電装部品を中心とした需要が堅調に推移、新車種向けの立ち上げ等もあり伸長

■情報デバイス

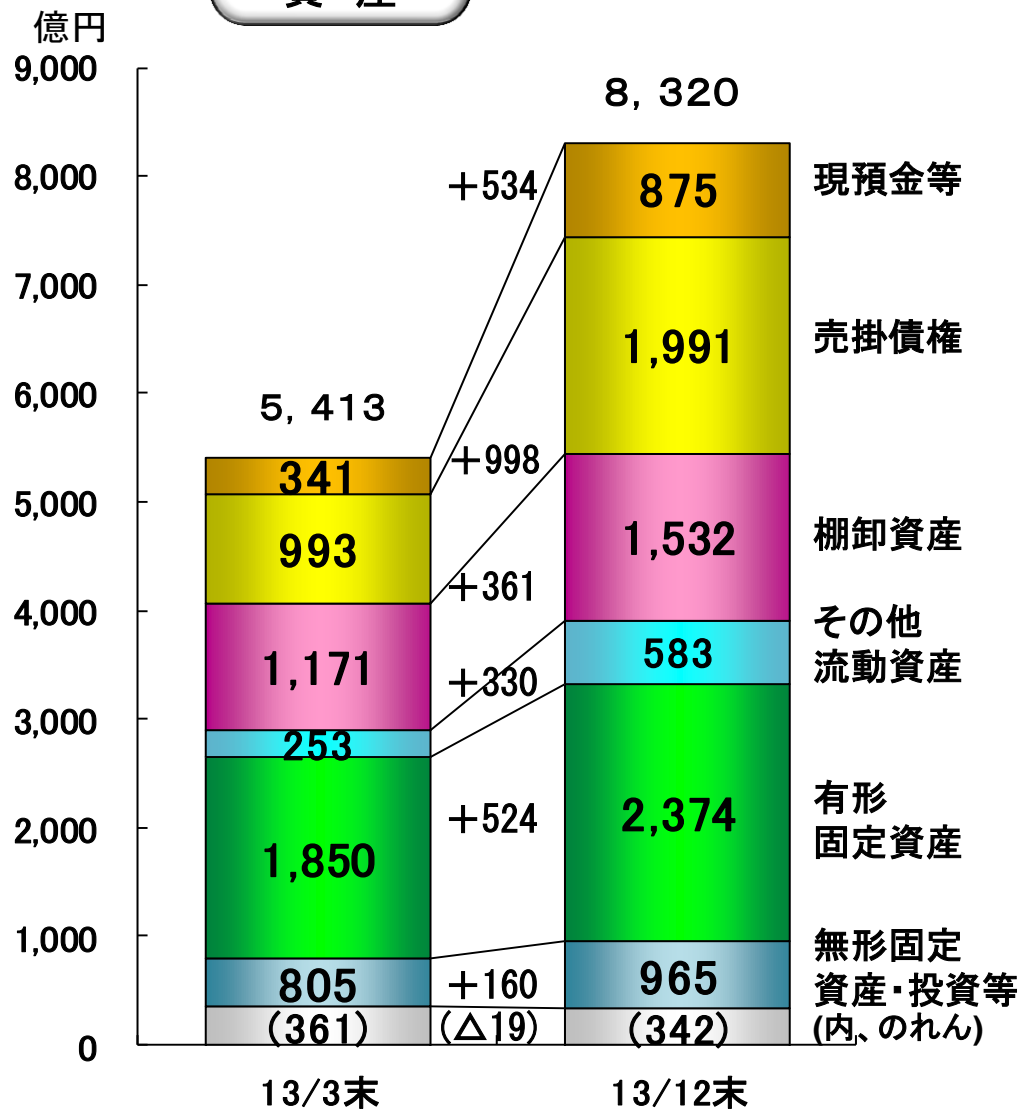
スマートフォン普及による通信事業者のネットワーク増強投資に伴うネットワーク機器の売上増加により好調に推移

* 当セグメントは、平成25年7月1日付日立電線株式会社との合併に伴って新設された事業セグメントです。第2四半期連結会計期間から当セグメントにおける業績を当社グループ業績に反映しております。

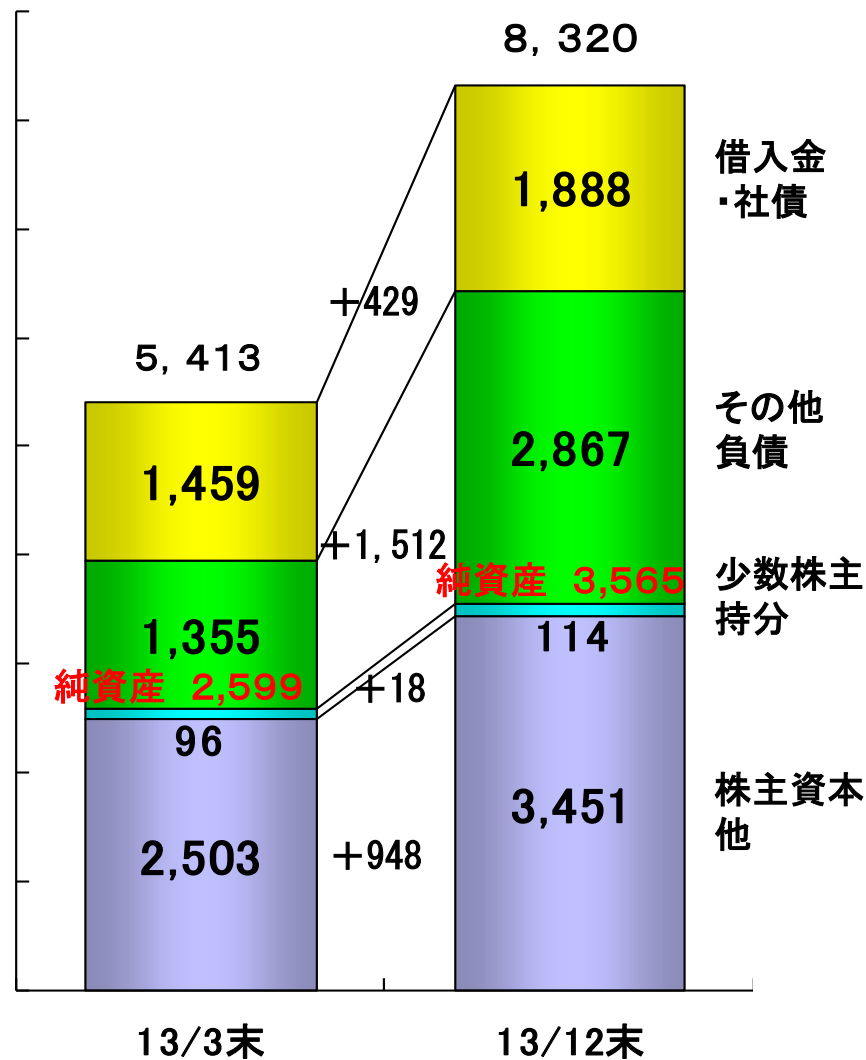


D/Eレシオ
0.58 → 0.55

資産



負債・純資産

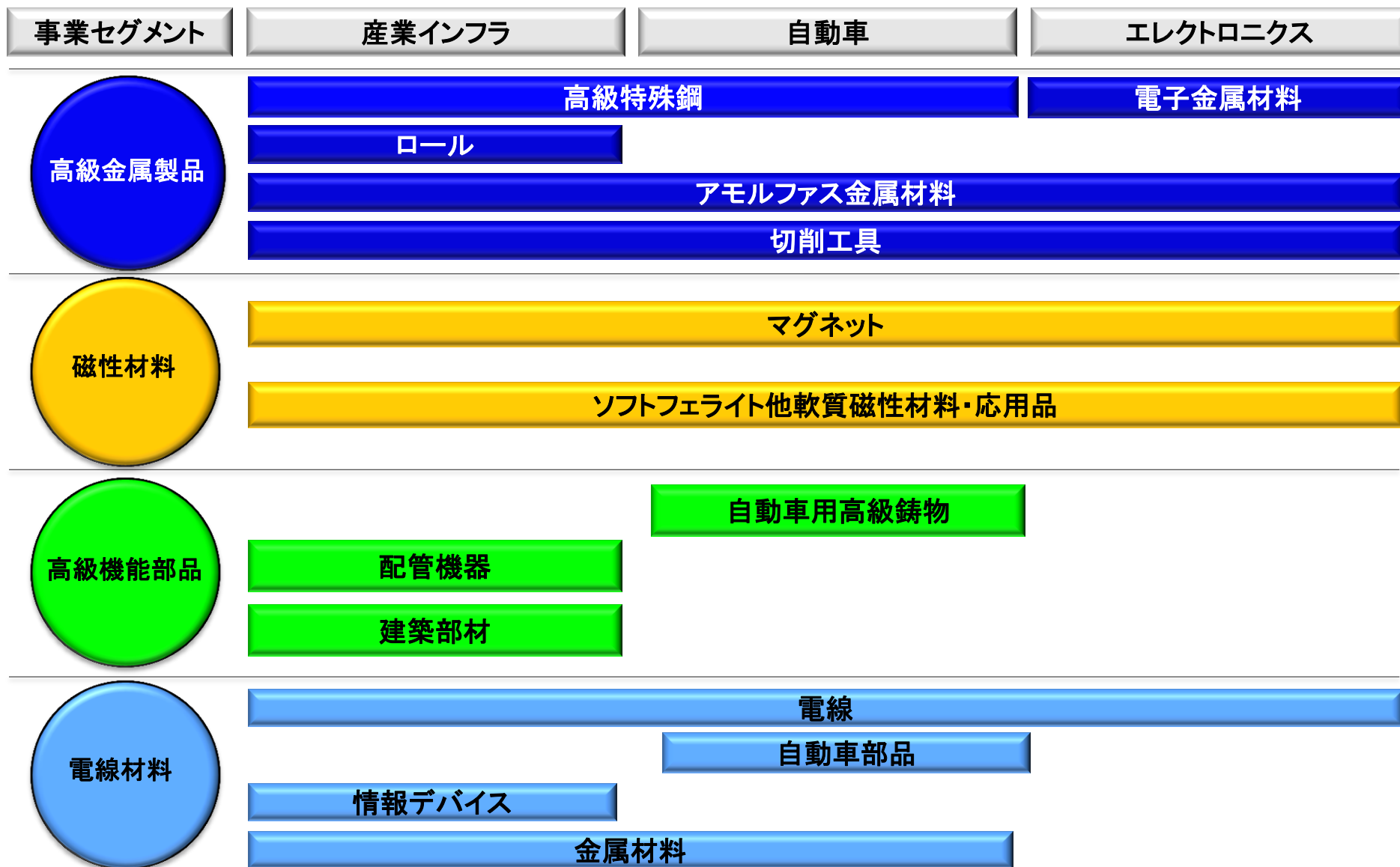


(億円)

科 目	12年度 第3四半期累計	13年度 第3四半期累計
現金及び現金同等物期首残高	280	341
税金等調整前当期利益	175	357
減価償却費	177	243
運転資金の増減	264	80
その他	△146	8
営業キャッシュ・フロー	470	688
設備投資	△220	△218
その他	4	7
フリーキャッシュ・フロー	254	477
借入金・社債の増減	△197	△105
配当金支払他	△70	△78
ネットキャッシュ・フロー	△13	294
為替換算差額他	14	240
増加額または減少額合計	1	534
現金及び現金同等物期末残高	281	875

(注)設備投資は検収ベース

材料開発をベースに幅広い産業分野で「質」を提供する素材メーカー



(参考) 日立金属 事業構造 (13年7月～)

合併前

合併後

高級金属製品
セグメント

高級金属
カンパニー

特殊鋼
ロール
アモルファス金属材料
切削工具

高級金属製品
セグメント

高級金属
カンパニー

特殊鋼
ロール
アモルファス金属材料
切削工具

磁性材料
セグメント

磁性材料カンパニー

マグネット
軟質磁性材料および
その応用品

磁性材料
セグメント

磁性材料カンパニー

マグネット
軟質磁性材料および
その応用品

高級機能部品
セグメント

高級機能部品
カンパニー

自動車用鋳物
配管機器

高級機能部品
セグメント

高級機能部品
カンパニー

自動車用鋳物
配管機器

*セグメントは日立機材も加え構成

*セグメントは日立機材も加え構成

電線材料
セグメント





電線材料カンパニー

電線
自動車部品
情報デバイス
金属材料

(参考) 日立金属 セグメント別事業内容 (13年7月~)

事業セグメント

主要製品

事業セグメント	主要製品
	高級特殊鋼[YSSヤスキハガネ] : 金型・工具用材料、電子金属材料[ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料]、産業機器・エネルギー関連材料、 剃刃材および刃物材
	各種圧延用ロール、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
	アモルファス金属材料[Metglas®]
	日立ツール株式会社 切削工具
	マグネット (希土類磁石[NEOMAX®]・フェライト磁石・その他各種磁石およびその応用品) 軟磁性材料(ソフトフェライト・ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット®]) およびその 応用品、アモルファス金属材料[Metglas®] 応用品、情報通信機器用部品、 IT機器用材料・部品、医療機器用材料・部品、
	自動車用鋳物
	配管機器
	日立機材株式会社 建築部材(内装システム、構造システム、屋上システム)、チェーン(マテハンシステム)
	電線(電力・産業用電線・ケーブル、機器用電線・ケーブルおよび配線部品、光・ 通信ケーブル、巻線、工業用ゴム製品)、自動車部品(電装部品、ブレーキホース) 情報デバイス(情報ネットワーク、ワイヤレスシステム、化合物半導体)、 金属材料(黄銅製品他)

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動